

## オランダのインフラ部門における カーボンニュートラルの取り組み



きのした せいや  
木下 誠也\*

昨年の本誌12月号で英国のインフラ部門におけるカーボンニュートラルの取り組みを紹介しましたが、もう一つの先進事例がオランダの取り組みです。オランダでは、受注者による炭素削減を評価するためのCO<sub>2</sub>パフォーマンス・ラダー（CO<sub>2</sub> Performance Ladder）という5段階認証システムを有しており、ライフサイクルアセスメントにおける環境コスト低減額を算定するためDuboCalcという計算ツールを使用しています。これらを入札に用いてインフラ整備における炭素削減に取り組んでいます。近年のEU等の動きとあわせてオランダの取り組みを見ていきたいと思います。

1993年EU公共調達指令が制定されてから、オランダは他のEU諸国に比べて公共調達における公開の度合いが足りないなど、EU指令に十分に適合できていないと考えられていました。調達政策を担当する経済省（現在の経済・気候政策省）が制度の見直しを行ない、1999年12月にプロフェッショナルな調達と入札（Professional procurement and tendering（PIA））という行動計画を打ち出しました。DuboCalcが考案されたのはこの頃です。運輸・水

管理省（現在のインフラ・水管理省）の実施機関であるRijkswaterstaat/RWS（公共事業庁）が2000/2001年に、DuboCalcの最初のプロトタイプを作成しました。

オランダ政府は、2003年1月の国政選挙の結果、生産性向上と経済発展のためのイノベーションを重視するようになり、プロフェッショナルな調達をさらに進めようと、首相が議長を務め産業界、学界、政治の代表約15人からなるイノベーションプラットフォームを設立しました。この動きを受けて、インフラ・環境省（現在のインフラ・水管理省）は、総調達予算の2.5%をイノベーションに支出することにしました。

2009年には、すべての公共発注機関によるイノベーション調達推進のためのオランダ公共調達専門知識センター（Dutch Public Procurement Expertise Centre/PIANOo）が設立されました。この年、CO<sub>2</sub>パフォーマンス・ラダーが、政府の鉄道保有機構であるProrailによって鉄道セクター向けに開発されました。その後、これを財団（Foundation for Climate Friendly Procurement and Business/SKAO）が

\* 日本大学 危機管理学部 教授

担うようになり、今ではあらゆる種類のインフラの公共調達に活用されています。

EU公共調達指令が2004年の改正を経て、2014年にさらに改正されると、公共調達を通じたイノベーションの推進や社会問題への取り組みが重視されるようになりました。具体的には、ライフサイクルの概念にCO<sub>2</sub>排出量等の環境要因を含めてMEAT (Most economically advantageous tender) 落札基準を用いることなどです。MEAT落札基準とは、コストだけでなく品質や持続可能性などの側面を総合的に評価して落札者を決めるというものです。これにより持続可能な発展などの社会問題を考慮して落札者を決定できることとされました。

オランダでは、2014年EU公共調達指令を国内に適用するため、2016年7月公共調達法が改正されました。公共調達法は、国だけでなく、州、地方自治体、地方水組織、法定の公的機関及び複数のこれら機関により構成される団体のほか、水、エネルギー、公共交通、郵便等に関する特別の権限を有する民間組織や50%超の公的補助を受ける団体にも適用されます。契約額がEU基準価格（2022年1月現在、工事については5,382,000ユーロ [約7億円]）を超える場合はEU指令に基づく調達方式を適用することとしています。

オランダ政府は、政府による責任ある持続可能な調達のため、2015年から5か年の**行動計画**を策定し、さらにそれを2025年まで更新しました。経済・気候政策省 (Ministry of Economic Affairs and Climate Policy) が2021年4月にとりまとめた公共調達モニタ

リングレポート (Public Procurement Monitoring Report of the Netherlands) によると、2019年における公共調達法による調達額は、EU基準価格を超えるもの298億ユーロと下回るもの567億ユーロを合わせて866億ユーロ（約11兆円）にのぼります。

PIANOoが実施したアンケート調査によると、2019年に持続可能な調達を実施した比率は件数ベースでEU基準価格を超えるものについては72%、下回るものについては78%でした。価格ベースではEU基準価格を超えるものについては88%で、下回るものについては88%に達しました。

CO<sub>2</sub>パフォーマンス・ラダーについては、現在、4,000を超える企業が認証を受けており、オランダとベルギーの200を超える公共発注機関により活用されています。2021年に、IISD (International Institute for Sustainable Development) は、SKAOの協力を得て、ヨーロッパ各国におけるCO<sub>2</sub>パフォーマンス・ラダーの適用を拡大しようとしています。

オランダではこのような先駆的な取り組みが進められていますが、炭素排出削減目標の設定方法や、達成状況の評価方法などについて詳細な調査が必要です。今後、さらに実情を把握し、わが国で取り組む際の参考にできればと思います。